

データ分析(生産性分析)

労働生産性とは

「付加価値（円）」を工事に関わった社員（労務人数）で割ることで1人日あたりの「付加価値（円）」を計算し、労働生産性の値（付加価値（円）/人）を求めます。

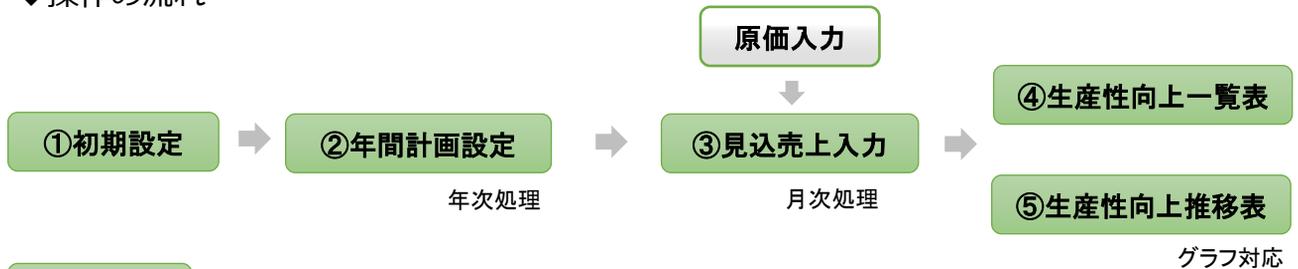
付加価値(円)の計算式

$$= \text{粗利益(売上-原価)} + \text{労務費}$$

労働生産性の値(付加価値(円)/人)の計算式

$$= (\text{粗利益} + \text{労務費}) \div \text{労務人数(延人数)}$$

◆操作の流れ



①初期設定

※初期設定-データ分析のタブで設定が必要です。

1) 人工区分の選択

生産性を求めるための労務費及び労務人数を、以下2パターンより選択できます。

1: 建設業(社内人工+外注人工)

労務費…労務費と外注費の合計原価

労務人数…社内人工+外注人工

2: 建設業(社内人工)

労務費…労務費の原価

労務人数…社内人工

2) 基準年度および基準値の設定

労働生産性の基準年度、基準値を設定することで、生産性向上一覧表で、基準年に対する生産性の増加率を確認できます。

②年間計画設定

年度単位の労働生産性の計画値(目標値)を設定します。

③見込売上入力

※生産性向上一覧表を作成するために入力が必要です。

1) 損益額(粗利額)計算

月ごとの進捗率を入力することで、対象年月時点での損益額(粗利額)を計算します。

サブツールバーの「進捗率計算」を行うことで、工事登録-データ分析の「進捗率計算」において設定された計算方法でチェックを付けた工事明細の進捗率を求めることができます。

2) 労務人数の設定

月ごとに工事に関わった労務人数を設定します。

サブツールバーの「一括人数設定」を行うことで、チェックを付けた工事明細の述人数を一括で設定することができます。

④生産性向上一覧表

見込売上入力を入力した労務人数と粗利額を元に、月ごとの労働生産性(付加価値/人)が集計されます。

⑤生産性向上推移表

生産性向上一覧表で集計した各月の労働生産性を元に、24か月分の労働生産性や基準年度又は前年度からの増加率の推移をグラフで確認することができます。